

| Column |

ART & CULTURE around 芸術

社会共生セミナー ～あらゆる人にひらかれた 劇場を目指して

「第1回 演劇公演の鑑賞サポートを考える」オンライン開催

東京芸術劇場は、公共劇場として社会共生の課題について考え学ぶための「社会共生セミナー」を今年度スタート。8月に開催した第1回では、障害の有無に関わらず多くの人に舞台芸術を楽しんでいただくための「鑑賞サポート」をテーマに取りあげた。

当館では、演劇・音楽公演で、視覚障害のあるお客さまのための事前説明会を開催している。演劇公演では、舞台装置や登場人物について、音楽公演では曲目や出演者などについて、開演前に説明を行う。聴覚障害のあるお客さまには、演劇公演でポータブル字幕機を用意し、セリフや音の情報を上演中に手元でご覧いただき、音楽公演では振動で音楽を感じるボディソニックを導入。さらに全劇場に、磁気コイル付き補聴器や人工内耳を使用するお客さまに舞台上の音声を効果的に伝えるための聴覚支援システムが備えられている。

これらの「鑑賞サポート」をお客さまにより使いやすく、効果的な施策にするための学びの場として、セミナーを企画。当



舞台説明会の様子

貸出し用の
ポータブル字幕機



日は、劇場や音楽ホールのスタッフ、障害当事者や支援者、その他社会共生に関心のある人など約50名がオンライン参加。ゲスト参加の障害当事者からも、さまざまな経験談や多くの示唆をいただくことになった。

視覚障害のあるゲストは、「舞台セットや俳優の役どころについて事前に聞けると、上演中に舞台を具体的に想像できる」とコメント。座席までのスムーズな案内も重要だが、サポートのニーズは人によって異なる。その人、その場に合わせた誘導を確認することが必要だ。

聴覚障害のあるゲストからは、「問い合わせ先」に関する課題があがった。ホームページに電話番号しか載っていなかったり、問い合わせフォームがわかりにくかったりするという。問い合わせがないことが、イコール、不便を感じている人がいないということではない。表に出てこないサポートのニーズ、公演鑑賞の希望がある。たとえば、ホームページに筆談が行えると情報があるだけでも、劇場を訪れることが歓迎されていると感じられるという。

2時間半にわたる熱心な話し合いから、参加者それぞれに具体的な課題が見えてきた。

「社会共生セミナー」シリーズでは、こうした鑑賞機会の充実と並んで、多様な人が一緒に参画できるより豊かな芸術創造に向けたテーマも取り上げ、年に4回ほど開催していく計画である。劇場は、障害の有無に関わらず、多様な人たちが楽しめる場所。あらゆる人にひらかれた劇場、あらゆる人が享受できるアーツを目指して、取り組みを広げていきたい。



INFORMATION

東京芸術劇場では、劇場をご利用になるすべての方の安全と安心のため、新型コロナウイルス感染拡大防止に関する取り組みをおこなっています。ご来館される皆さまは、当劇場ウェブサイトの【東京芸術劇場における新型コロナウイルス感染症対策とご来館される皆さまへのお願い】や館内掲示されている注意事項などを、ご確認ください。

次号の発行は2022年1月1日を予定しています。

www.geigeki.jp



〈鑑賞サポート〉について

東京芸術劇場では、一部の事業で、視覚・聴覚障害者のための舞台鑑賞サポートやヒアリンググループ、各種割引、託児サービスなどの〈鑑賞サポート〉を行っております。ぜひご利用ください。詳細 ▶ 劇場HP内「鑑賞のサポート」ページ
www.geigeki.jp/access/support.html

新型コロナウイルス感染症対応のため、掲載情報に変更がでる場合がございます。
最新情報は、東京芸術劇場や各主催者のHP等でご確認ください。

東京 芸術 劇場

Tokyo
Metropolitan
Theatre